

令和7年度 第1回 郷土資料館 あり方検討会

令和7年6月25日(水) 15時～
鶴岡市立図書館2階講座室

次 第

- 1 開 会 (15:00)
- 2 挨拶

(資料と今後のスケジュールを説明)
- 3 講 話 (15:10)
○テーマ 郷土資料・地域資料の保存と活用について～
元小平市中央図書館館長・蛭田廣一氏
- 4 説 明 (15:50)
これまでの経過と鶴岡市郷土資料館の現状について
- 5 意見交換 (座長：山崎博樹氏) (16:00)
検討会委員と郷土資料館運営委員会委員との意見交換
- 6 閉 会 (17:00)

鶴岡市郷土資料館あり方検討会 委員名簿

	氏名	役職等
No. 1	山崎博樹	元秋田県立図書館副館長 知的資源イニシアティブ代表理事
No.2	蛭田廣一	元小平市立図書館長
No.3	門松秀樹	東北公益文科大学教授
No.4	石黒志保	山形大学人文社会学部講師
No.5	菅原義勝	致道博物館学芸員

郷土資料館運営委員名簿

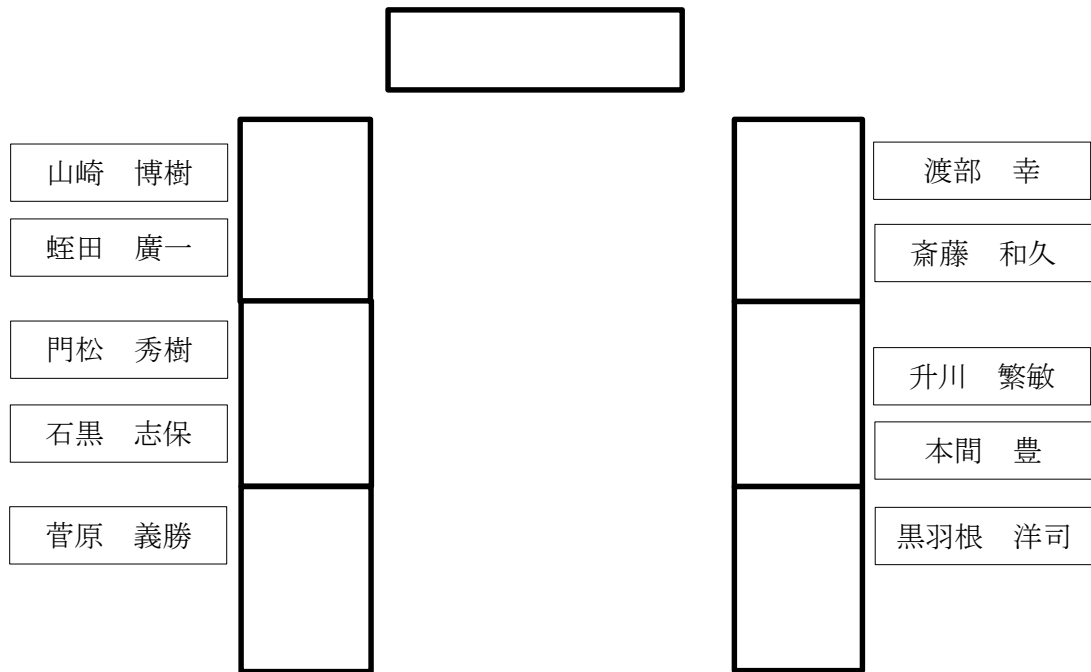
	氏名	役職等
No. 1	阿部博行	鶴岡市史編さん委員
No.2	渡部 幸	出羽三山博物館 学芸員
No.3	佐々木勝夫	元小学校長
No.4	斎藤和久	元県立高校校長
No. 5	本間 豊	致道博物館 学芸員
No. 6	升川 繁敏	鶴岡市史編さん委員
No. 7	黒羽根 洋司	学識経験者
No.8	森木 三穂	鶴岡工業高等専門学校 講師

事務局

	氏名	役職等
No.1	成沢和則	教育長
No.2	白幡 有	教育部長
No.3	伊藤智康	教育委員会 管理課 主幹
No.4	五十嵐恭子	図書館・郷土資料館館長
No.5	今野 章	図書館・郷土資料館館長補佐
No.6	松本 渉	図書館・郷土資料館 主任
No.7	白幡凧人	図書館・郷土資料館 主事

令和7年度 第1回 郷土資料館あり方検討会 席次

(敬称略)



伊藤主幹 教育長 教育部長 図書館長



白幡 松本 今野

出入口

傍聴席

出入口

地域資料の構築と活用

元小平市中央図書館長 蛭田廣一

はじめに

1) 自己紹介

2) 地域資料に関する出版物

- ・三多摩郷土資料研究会編『地域資料入門』日本図書館協会,1999.04
- ・蛭田廣一『地域資料サービスの実践』日本図書館協会,2019.08
- ・蛭田廣一編『地域資料サービスの展開』日本図書館協会,2021.12
- ・蛭田廣一編『地域資料のアーカイブ戦略』日本図書館協会,2021.12
- ・蛭田廣一『地域資料サービスの実践 補訂版』日本図書館協会,2023.01
- ・蛭田廣一監修『蛭田先生。地域資料は集めるだけじゃダメってどういうことですか?』DB ジャパン,2024.6
- ・蛭田廣一『子ども向け地域資料作成の手引き』DB ジャパン,2024.08

1. 地域資料とは

1) 地域資料の定義

地域資料とは、当該地域を総合的かつ相対的に把握するための資料群で、地域に関する全ての資料及び地域で発生する全ての資料である。（『地域資料入門』日本図書館協会,1999）

2) 地域資料の責務

特定の公共的奉仕圏をもつ図書館は、その地域内に関するあらゆる資料（情報）の収集と利用について、他に転嫁できない最終的な責任を持つ（『図書館ハンドブック 第四版』日本図書館協会,1977 俵元昭）

2. 小平市立図書館の地域資料（地域資料合計所蔵数 360,966 点／2023.03.31 現在）

- 1) 一般図書（行政資料・地図・学校関係資料） 69,954 冊
- 2) 特別文庫・特別コレクション 36,037 冊
- 3) 新聞記事の切り抜き 63,219 点
- 4) 折り込み広告 80,109 枚
- 5) 郷土写真 68,771 枚
- 6) ポスター 9,938 枚
- 7) 市内在住著作者資料 2,259 点
- 8) 古文書 50 家・30,679 点

3. 地域資料の構築

1) 一般図書

- ①独自分類と地理区分
- ②内容細目の入力

③パスファインダーの作成

④レファレンス記録の活用 ⇒ 協同データベースへの登録

2) 学校関係資料

①市立小中学校の出版物収集

②学校史料集の作成

③学校周年史・社会科副読本作成協力

3) 新聞記事の切り抜き

①台紙での分類順・日付順の整理

②記事索引の作成

③ホームページでの検索システム構築

④見出しではなく摘要による内容表示

⑤大正期から市制施行時までの遡及入力

4) 町報・市報記事索引

①縮刷版からの書誌作成

②市史編さん事業の活用

5) 郷土写真

①市内 210 カ所の定点撮影とテーマ別撮影

②『小平町誌』編さん時の写真資料の整理

③広報課撮影の写真資料の移管と整理

④デジタルアーカイブの公開

⑤写真資料の目録整備

6) 古文書

①目録作成

②複写製本の作成

③史料集の作成

④内容目録の作成

⑤資料保存対策

⑥ネット de 古文書講座

⑦デジタル化とデジタル情報公開

7) 郷土資料索引の作成

①郷土こだいら総索引

②小平町誌総索引

③小平事始め年表・索引

④小平市史索引

⑤小平市史年表

8) こだいらこどもきょうどしりょうの作成

9) 中央図書館における歴史公文書系の設置

4. 特別コレクションの情報発信

1) デジタルアーカイブ https://library.kodaira.ed.jp/reference/digital_archive.html

①小平市史（地理考古民俗編、近世編、近現代編）

②小平市史別冊（図録・写真集）

③定点撮影写真

④新聞記事検索データベース

⑤平櫛田中彫刻作品及び田中文庫

⑥古文書目録

⑦デジタル情報アクセス数（令和6年度）

	種 別	アクセス数
1	図書館ホームページ	520,689
2	デジタルアーカイブ	965,729
3	同 トップページ	33,883
4	調べもの・レファレンス	3,674
5	新聞記事索引	1,655
6	町報・市報記事索引	1,504

※ 図書館ホームページは総セッション数

2) パスファインダー集 <https://library.kodaira.ed.jp/reference/pathfinder.html>

①基礎編

②参考図書編

③地域情報編

④番外編

3) 地域資料・刊行物 <https://library.kodaira.ed.jp/reference/local.html>

①地域資料分類表

②刊行物案内

4) 小平事始め年表 <https://library.kodaira.ed.jp/reference/kotohajime.html>

5) 古文書 <https://library.kodaira.ed.jp/reference/komonjo.html>

6) ネット de 古文書講座 <https://library.kodaira.ed.jp/reference/komonjokouza.html>

7) 小平市に関するレファレンス事例集 <https://library.kodaira.ed.jp/reference/kodaira.html>

8) 新聞記事検索 <https://library.kodaira.ed.jp/np/>

9) としょかんこどもきょうどしりょう <https://library.kodaira.ed.jp/kids/tkk/>

10) 紙芝居『小平の歴史』 <https://library.kodaira.ed.jp/reference/kamishibai.html>

5. 小平市における地域情報

1) 小平市のホームページ <https://www.city.kodaira.tokyo.jp/>

①こだいら KID'S ぶるべーのさんぽみち

②小平市立図書館

2) こだいら観光まちづくり協会 フラットと NAVI <https://kodaira-tourism.com/>

6. 小平市における情報化の進展

1) 小平市役所の図書館化

2) 市政刊行物ライブラリー

3) 玉川上水風景写真

4) 小平市の地図

郷土資料館のあり方検討会

第1回 資料

令和7年6月25日
鶴岡市郷土資料館

- ◆図書館としての郷土資料収集は鶴岡町立図書館開館4年後の大正8年（1919）の荘内史編纂会設立に始まり、さらに昭和29年（1934）から始まった市史編纂事業と相俟って、図書館に郷土資料が集積されるようになった。
- ◆昭和40年代になると、民間からの史料の寄託・寄贈が増大したことにより、図書館では史料の保管場所が確保できなくなったことから、図書館の郷土資料部門が独立した形で郷土資料館の設立となった。
- ◆モノ資料ではなく、**文献（紙）資料を中心に収集する「文書館」的な性格としてスタートしている。**
- ◆**図書館と一体性を維持し、市長部局と連携しながら行政資料の収集にも力を入れてきた。**

荘内史編纂会（前身1）

- 大正8年（1919） 荘内史編纂会設立。鶴岡町立図書館内に事務室が置かれ、「荘内史ヲ編纂スルヲ以テ目的」で史料収集が始まる。
- 昭和21年（1946） 荘内史編纂会の解散。「荘内史編纂会史料」782点が図書館へ引き継がれる。

図書館（鶴岡市史編纂会）（前身2）

- 昭和29年（1934） 鶴岡市史編纂会発足。図書館に事務室が置かれる。
- 昭和37年（1962） 『鶴岡市史』上巻が刊行され、その後、昭和50年に中下巻が刊行する。
- 昭和40年代 旧町村役場の行政資料を保存し、さらに市役所の文書廃棄に立ち合い、歴史的価値のある資料の評価選別に着手するようになる。
- 昭和48年（1973） 通商産業省の補助金を利用して資料館の建設が決定される。
- 昭和51年（1975） 4月、鶴岡市史編纂会の事務局が庶務課に置かれ、『荘内史料集』の編纂が始まる。

鶴岡市郷土資料館

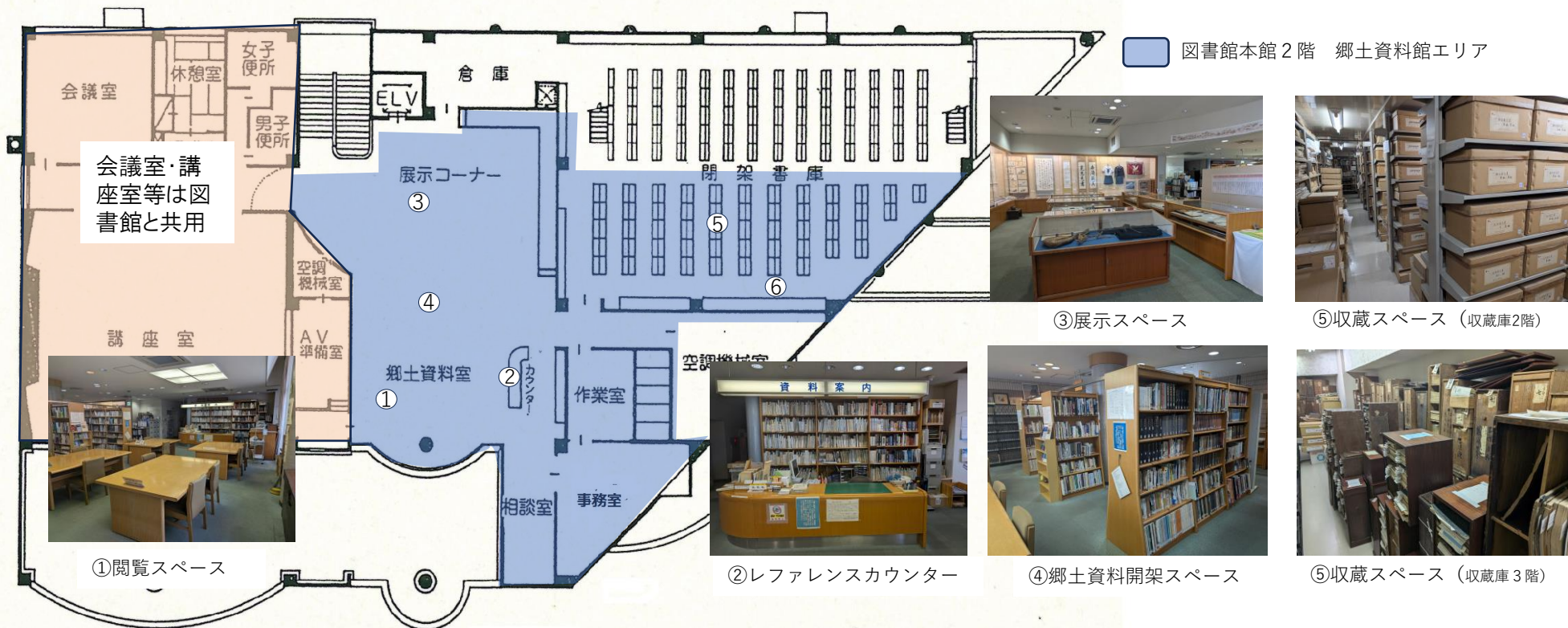
- 昭和51年（1976） 鶴岡公園地内に鶴岡市郷土資料館が開館。ただし、史料保存のスペースが十分に確保できなかったことから、開館まもなく収蔵庫の狭隘に直面する。
- 昭和60年（1985） 図書館新館開館にともない、郷土資料館の機能も新館へ移転する。（名称と展示機能のみが残り、同館は平成11年からは収蔵庫として利用される）
- 平成19年（2007） 公園地内の施設が解体されるに及び、正式に図書館と併設される。（その後、公園内の施設にあった史資料は、旧家庭専門学院、旧小堅小へと2度移転する）
- 令和7年（2025） 旧小堅小で所蔵していた史料を出羽庄内国際村の収蔵庫に移転する。



鶴岡公園内にあった郷土資料館



当時の資料の保存状況



庄内全域を対象に文献資料を収集

- ・収集史料は庄内全域を対象とし、原則、書画・民俗資料は収集せず、主に文献資料（古文書・行政資料・出版物等）が対象となる。
- ・展示主体ではなく、史料閲覧・調査研究で利用する方々向けの「文書館」的な施設。

図書館・市役所との一体性

- ・図書館の郷土資料の部門が独立して設立された施設であり、**図書館と一体となって運営されてきた。**
- ・市役所内で保存年限が切れた行政資料を郷土資料館で評価選別し目録化して保管するなど**公文書館的な機能**もある。
- ・市史編さん事業は、事務局は総務課だが郷土資料館の職員が兼務し、実務的な役割を担っている。

全国とのネットワークを構築

- ・地方史研究協議会・民衆思想研究会・国文学研究資料館主催のアーカイブズカレッジ（短期）などの学会・研修会などを開催。参加した研究者とのネットワークを構築している。
- ・藩士の釣りや新徴組、石原莞爾など、一般受けする史料を所蔵していることから、マスコミに取り上げられる機会が比較的多い。

体制

◆職員体制

- ・館長（図書館長と兼任）1名
- ・正職員 2名
- ・会計年度職員 4名
- ・市史編纂委員（常駐）1名

利用状況

項目	R3	R4	R5	R6
閲覧者（人）	4595	4264	4494	2473
デジタルデータ 閲覧者数（人）	72	102	114	144
参考相談（件）	226	260	260	265
複写件数（件）	784	803	861	590
資料撮影件数（件）	71	136	94	134
資料利用申請数（件）	30	41	34	33

- ・レファレンスサービスは大学の研究者から小学生の自由研究まで、適切な史料を提供し、調査相談に対応している。
- ・大型絵図や地元新聞、石原莞爾の貴重資料などはデジタル化し、館内設置のPCで閲覧できる。
- ・古文書の横断検索システムと構築など、来館者向けのサービスは整っているが、インターネットでの史料の公開など、非来館者へのサービスは弱い。
- ・コロナ禍で当月の新聞閲覧は郷土資料館で行っていたが、令和6年より図書館スペースでの閲覧に戻した結果、閲覧者が減少した。

所蔵資料

- 古文書類 ※（）は件数 2024年9月現在
- ・医療(6) ・海運(13) ・学芸(3) ・教育(10)
 - ・行政(13) ・郷方(168) ・個人(75)
 - ・個人収集(35) ・寺社(18) ・修験(14)
 - ・典籍(14) ・武家(81) ・町方(64)
 - ・民間企業(11) ・その他(14)

計 539件 約22万点

○その他の資料

- ・郷土図書（約2万点） ・古写真、絵葉書
- ・論文、コピー図書（郷土史に該当する部分）
- ・文芸同人誌 ・文集（学校含む） ・郷土雑誌
- ・地元新聞 ・パンフレット、チラシ
- ・レファレンス用資料 ・行政再保存資料

<主な所蔵資料>

○古文書類

「松本十郎資料」（北海道開拓使大判官）3,535点

「秋野家文書」（加茂の大地主）25,000点

「清川斎藤家文書」（清川組などの大庄屋）3,800点

「石原莞爾資料」（軍人思想家）8,410点

他に藩校致道館の蔵書、旧鶴岡町役場資料など行政文書

○その他資料

古写真・絵葉書など



日本最古の魚拓



最上家時代の鶴岡城図

①主な企画展示（年2～3回程度）

- R1 「史料でみる食の系譜展」
「庄内藩御用大工 小林家史料展」
- R2 「加茂の歴史展」「酒井玄蕃了恒展」
- R3 「新整組展」「大山御領の村絵図展」
- R4 「大泉紀年の世界」「江戸市中取締展」
- R5 「近世鶴岡の俳諧展」
「近世の旅人 全国諸街道を闊歩する展」
- R6 「佐藤与之助・真嶋雄之助展」「ワッパ騒動展」
- R7 「鶴岡北高の歴史展」「丸谷才一展（予定）」

②歴史講演会 ※肩書は当時のもの

- R1 「上杉謙信と出羽庄内」山田邦明氏（愛知大学文学部教授）89人
 - R3 「薩摩藩邸焼き討ち事件とその関係者の評価」
岩立将史氏（中央大学兼任講師）47人
 - R4 「鶴岡の俳諧と美濃派・江戸座」
稲葉有祐氏（和光大学表現学部准教授）24人
※酒井家庄内入部400年記念講演会（全5回）に企画協力
 - R5 「庄内の蘭学者・小関三英—その生涯と功績、庄内地域との交流—」
矢森小映子氏（近世史研究者）26人
 - R6 「戦国時代の地域権力論—出羽庄内・大宝寺義興の事例から—」
畑山周平氏（東京大学史料編纂所助教）54人
 - R7 「長篠合戦と酒井忠次」（予定）
金子拓氏（東京大学史料編纂所教授）
- その他、古文書講座（年1回2～3講）、郷土史講座（年2回）



2階展示コーナー



歴史講演会『講演録』

③出版

- 『諸家文書目録』（1～12）
- 『鶴岡市立図書館100年史・鶴岡市郷土資料館40年史』（2017）※
- 『通史の中の庄内』（2017）
- 『通史の中の庄内2』（2023）※歴史講演会の講演録
- 『郷土資料館史料集1 菅実秀関係史料』（2020）

④学会開催

- 地方史研究協議会・鶴岡市郷土資料館合同研究例会
「第62回（庄内）大会から5年—その後の成果と研究」（2017年7月1日）
- 戦国史研究会鶴岡例会（2019年9月7日）
- 地方史研究協議会・鶴岡市郷土資料館合同研究例会
「第62回（庄内）大会から10年—その後の成果と研究」（2022年7月2日）
- 民衆思想研究会鶴岡大会（2024年8月24日）

⑤致道博物館との連携事業

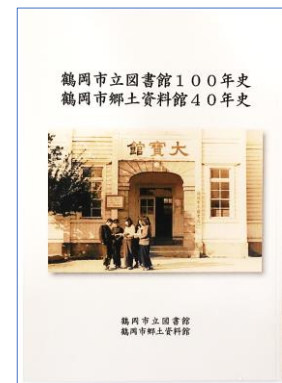
- シンポジウム「金峯山の歴史を古文書から読み解く」（2021年10月2日）
- 講演会「ワッパ騒動とは何か？」（2024年12月8日）

⑥研修会開催

- 国文学研究資料館「アーカイブズカレッジ短期コース」43名参加
（2018年11月12日～17日）



歴史講演会の様子（令和7年3月）



※周年記念誌